

臨床研究に関する情報公開（一般向け）

<研究課題名>

終末期在宅がん患者における身体的 QOL の関連因子について

(英文課題名 : Factors Associated with Physical Quality of Life at Home-Based Patients with Terminal Cancer)

<研究期間>

実施承認日～2025 年 3 月 31 日

<研究の目的・意義>

身体的苦痛とは、痛みや倦怠感など症状や日常生活における動作の障害などを指します。これらはがん患者様の生活の質(QOL)に大きな影響を及ぼすとされています。特に日常生活の動きの中でも歩いてトイレに行き、便座に移ることが制限されるとがん患者様の生活の質や人間としての尊厳に影響を及ぼすとされています。しかしながら、終末期がん患者様において日常生活の動きの制限と痛みや倦怠感などの症状のどちらが身体的な QOL に影響を及ぼすのかは分かっていません。

そこで、本研究の目的は、終末期在宅がん患者様におけるトイレ移乗及び歩行と身体的 QOL との関連を明らかにすることです。

在宅がん患者様のトイレ移乗及び歩行と身体的 QOL との関連が確認されることで、訪問リハビリテーション(リハビリ)において症状緩和だけでなく日常生活の動きを可能な限り保つための効率的なリハビリ内容の選択の一助になると考えられます。

<研究方法>

本研究の対象は、マリアーナ訪問看護ステーションにおいて訪問リハビリを導入した終末期がん患者様であり、既存の訪問リハビリの診療情報を研究データとして用いるため、名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻およびマリアーナ訪問看護ステーションのホームページ上に研究情報などを公開し、研究対象者様が拒否できる機会を保障させていただきます。研究への参加は自由意思であり、拒否した際に不利益を被ることはありません。

調査する項目としては、調査する項目としては、QOL は EORTC QLQ-C15-PAL(日本語版 The European Organization for Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire Core 15 Palliative Care)、全身状態は PPS(Palliative Performance Scale)、日常生活の動きは FIM(Functional Independence Measure)、その他に画像データ、生理検査データ、血液検査データ(Hb、Alb など)、カルテより年齢、性別、身長、体重、BMI、病巣、現病歴、既往歴、治療状況、併存疾患、家族歴などの情報を抽出します。

<予測される利益・不利益について>

在宅がん患者様のトイレ移乗及び歩行と身体的 QOL との関連が確認されることで、訪問

リハビリにおいて症状緩和だけでなく日常生活の動きを可能な限り保つための効率的なりハビリ内容の選択の一助になると考えられ、患者様やご家族のより良い在宅生活を送って頂く方策につながると考えられます。本研究は既存情報を利用して実施する後ろ向き研究のため、患者様に健康上の不利益を生じることは一切ございません。患者様やご家族様からの質問および苦情がある場合には、下記の連絡先で随時受付、適宜対応させていただきます。

<本研究の実施について>

本研究は既に日本理学療法士学会で倫理申請を通過した研究であり、さらに、名古屋大学生命倫理審査委員会の承認を受けた上で行われます。もしも対象者様やご家族様がこの研究へのご自身の情報の利用を望まれない場合には、この研究には使用いたしませんので、下記連絡先までご連絡・ご相談ください。

しかしながら、解析終了後または学会・論文での発表後には、データを削除できないことがありますのでご了承ください。

連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻

研究代表者：杉浦英志

住所 〒461-8673 名古屋市東区大幸南 1-1-20

電話番号 052-719-1364 FAX 番号 052-719-1506

苦情の受付先：

名古屋大学医学部保健学科 総務係 電話番号 052-719-1504

<個人情報の保護について>

患者様のプライバシーを守秘し、研究に用いる情報は全て匿名化して個人が特定されない形にしてから解析を行います。したがって、患者様の個人情報に他に漏れる心配はありません。匿名化されたデータやその他の解析資料等は、施錠可能な棚で保管し、研究終了後 10 年間を経過した後、破棄いたします。

<費用について>

この研究に関して、患者様へ追加でご負担いただく費用はありません。また謝礼もございません。